

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872100409		
法人名	株式会社 ありが園		
事業所名	グループホームありが園	ユニット名(A棟)	
所在地	茨城県ひたちなか市東石川3139-2		
自己評価作成日	令和2年9月26日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 2 月 5日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様1人ひとりの「できること」「したいこと」にできる限り対応し、介護と看護の連携を図り、心身の機能を維持するとともに1日1日を大切に、家庭的な雰囲気の中で楽しく、穏やかに生活していただけるよう心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0872100409-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0872100409-00&ServiceCd=320)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和2年11月17日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の意思と人格を尊重し寄り添い自立した日常生活が継続できるように支援している。本部管理者も事業所に来て職員が働きやすい環境で理念に沿ったサービスが出来るように努めている。管理者が作成する説明書や指針等は家族等も理解し易い。介護計画書も職員が利用者一人ひとりにどのような日々の支援をしたら良いか分かり易く、家族が見ても安心できるものとなっている。現在は新型コロナウイルス感染症予防に対応した支援を実施して外出や外食ができないが、広い敷地内を散歩したり、カフェテラスの様に作られている広い中庭には透明の屋根や東屋が設置されていて椅子とテーブルが置かれ、利用者は常磐線の電車や花を眺めながらお茶を楽しみ、穏やかに過ごせる環境にある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や事務室など職員の目のつく所に掲示し、全職員が理念を名札に入れて携帯しています。	玄関や事務室に企業理念とともに掲示し、職員は名札に入れて携帯している。職員は利用者に寄り添い利用者が自立した生活ができるよう理念に基づいたサービスを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度、イベントをホールや園庭で実施し、近隣の方をお誘いしたり、ボランティアの来訪があります。自治会の運動会、夏祭りの参加や、中学生の職場体験の受け入れなどを通じて交流をしています。	自治会に加入し、運動会や夏祭りなどのイベントや清掃活動などに参加している。事業所の敬老会やクリスマス会に地域住民を招待し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まり、運営推進会議を通じ、グループホームの存在意義および認知症についてを地域の方達と交流しながら理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、自治会の方々、民生委員、利用者様ご家族に参加していただき、運営・行事の報告、サービス内容の意見交換を行い、サービスの向上を進めています。	定期的に開催し、行政より感染症の状況や対策などの話があり参考になっているほか自治会長、民生委員が参加している為、地域の情報交換ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書の提出や毎月1回、介護相談員の方2名に来園していただき意見交換をしています。	管理者は、電話や要介護申請などで直接窓口に出向き情報交換をしている。市の介護相談員が毎月2名来訪し、利用者の話を聴いている。運営推進会議には、市職員と地域包括支援センターが交互で出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園の指針を整備し、対策を検討する委員会を3ヶ月に1度開催し、園内での研修会を実施し、委員会での報告とともに身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。	虐待予防、身体拘束排除委員会を3ヶ月に1度開催して勉強会を行っているほか管理者が随時気が付いた点などを教育している。外部研修にも参加している。マニュアルが作成され、見直しも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内で実施している研修会で、虐待について正しく理解し、全職員が常に心掛け、虐待のないケアを実践するよう徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内で実施している研修会で、成年後見人制度についての勉強会を開き、活用できる取り組みをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改訂があった際は速やかにご家族、利用者様が理解できるよう、十分に説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	園の玄関口に意見箱を設置するとともに、ご家族の来園時には要望等を伺うように心がけています。毎日の事業所全体の報告書で報告し、迅速に対応できるようにしています。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の相談や苦情相談受付窓口を明示するとともに玄関に意見箱を設置している。家族等の面会時に積極的に声掛けをしたり、電話で意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個人面談、申し送りの中で意見を聞きながら取りまとめ十分に検討の上、会議の場で報告しています。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員会議時や申し送り時にも意見や要望を聴くようにしている。入浴や利用者の生活に必要な物品の購入などの意見に迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務や労働条件等で相談があった場合、個人面談を行い、調整や変更を行い離職につながらない努力をしています。月に一度開催される管理者会議でも職員の要望等を報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種委員会を設置し、毎月講習会を実施して能力向上を進めています。その他、外部研修への参加も行っていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での施設交流や勉強会の開催、外部研修へ参加し、他施設との交流を深め、当施設で適当と思える内容について取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談を行うことを必須とし、本人の要望等を傾聴しながら、何を求めているかを理解するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談とその後の連絡を密に取りながら、ご家族の不安、罪悪感をできる限り取り除き、信頼関係を築いていけるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人が今何を必要としているのかをケアマネージャー、管理者、看護師と話し合いできる限りの対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	面談で得た情報と、生活歴などの情報をもとに、本人ができる範囲で役割を持ち、利用者様同士、職員と共に支え合っているように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	園での行事を、ご家族と一緒に参加できるよう、お便りや口頭でお知らせし、ふれあえる機会を設けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承のもと、本人の希望を聞きながら対応しています。継続的にご家族、友人とのつながりが持てるよう努めています。	入居時の聴き取りや家族等からの情報や日々の会話の中から情報を得ている。利用者の思いを家族等に伝え、家族等が同行して外出や買い物、外食に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アセスメントをしっかり行い、利用者様同士のトラブルの無いよう職員間での情報共有をしています。また、常に職員が見守り、利用者様同士が支え合い、穏やかに生活ができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族または他事業所からの相談にできる限り支援できるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様1人ひとりに関わりを持つ時間を作り、希望や意思の把握に努めています。困難な場合は、行動、表情から意向を把握するよう努めています。	利用者の表情や目の動きなどから思いを汲み取り、思いを表出できる利用者に対しても日々の活動も無理強いくことなく利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントをしっかりと行い、生活歴を把握し、継続的にアセスメントを実施しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様1人ひとりをしっかりと観察し、毎日の申し送り等で職員間で情報を共有することで、尊厳を大切にしながら現状の把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様ひとりひとりが自分らしく生活ができるよう、本人とご家族の思いを聞き取り、毎月の職員会議、サービス担当者会議の場で話し合い、介護計画に反映しています。	毎月モニタリングを行い、基本1年で見直しを行っている。介護計画は家族等が見ても分かりやすく、職員も支援しやすい介護計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の大切さを職員に伝え、記録の充実を図るよう努め、介護計画にも反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をふまえて対応しています。また状況が変化した時でも柔軟にできる限りのサービスを提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、情報を収集し、地域の方々の協力を得ながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の訪問診療を定期的実施しています。緊急時は往診にて対応していただいています。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回、訪問歯科診療が週1回ある。家族等が受診に付き添う際には情報提供書を渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置して、常に利用者様の健康管理や相談の対応をしています。また、その都度提携病院へ相談できる体制となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応をご家族とおこなったり、情報提供を病院に速やかに行っています。入院期間中はご家族の要望に合わせて対応しています。また、医師や看護師と情報交換しながら、早期退院ができるように支援し、退院後のスムーズな受け入れに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様やご家族の意向を聞きながら、医師と職員が連携し、できる限り納得が得られるような看取り介護を実践しています。意向は記録に残し、全職員で共有しています。	「看取り介護に関する指針」と同意書がある。24時間オンコール体制を取っている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。職員は年1回内部研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時のマニュアルを作成し、常に職員が確認できるようにしています。また定期的に勉強会、訓練を実施しいざという時の実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に依頼して、全職員とご利用者様を対象とし、年二回の避難訓練を実施し、避難方法を身に付けています。また緊急時に備えて備蓄品を整備しています。	地震や火災を想定した訓練を行っているが、夜間想定の実践を行うまでには至っていない。併設するサービス付き高齢者住宅と合同で実施している。各居室にはタオルや靴下、上着、笛を入れた非常持ち出し袋や防災ヘルメットを備えている。	年に1回は夜間想定避難訓練を実施して、反省会を行い課題を抽出して次の目標にすることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様1人ひとりの誇りやプライバシーを尊重するために、定期的に勉強会を開くとともに、職員間で情報共有し、指摘し合えるようにしています。	名前を呼ぶ時や、排泄時の言葉かけには利用者ごとに言葉かけを配慮し、誇りやプライバシーを尊重している。同意書の中で個人情報と肖像権が分けられていないので項目ごとに「同意しない」の選択ができない。	個人情報の同意書の中に肖像権も記載されているので、肖像権を別紙にした同意書を作成することを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が答えやすい質問にするなど、工夫しながら声掛けをすることで自己決定していただけるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別支援を念頭に、個人の状態を観察し、日々の記録に残し、利用者様1人ひとりのペースに合わせて支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が自己決定できるような声掛けや身振りで、意思を確認しながら行っています。訪問散髪を取り入れ、身だしなみの支援や、女性の方にはネイルやメイクを実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が食べたいものを聞き、メニューに反映したり、職員と一緒に下ごしらえをしていただいたりしています。プランターで野菜を育て、収穫する楽しみ、食する楽しみも取り入れ食べる楽しさも支援しています。	管理者が栄養士の為、栄養面+目でも楽しめるよう色合いや品数にも配慮し、出来た物が運ばれて来る。利用者から食べたい物を聞き、メニューに反映させている。2~3回/年、おやつを決め利用者と職員で作っている。隣接する同一法人のカフェに不定期で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握できるように、チェックシートを用いて確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。介助が不要な利用者様には声掛けし促しています。実施漏れの無いよう記録に記入し残しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録を用いて、利用者様1人ひとりの排泄パターンを見極めて対応できるようにし、できる限りトイレで排泄ができるよう支援しています。	利用者の排泄パターンを把握し誘導して、夜間も含めてトイレでの排泄に努めている。入居時には紙パンツ使用の利用者も声掛けで、トイレでの排泄を促し布パンツになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、排便が確認できない利用者様には排便を促す食品を提供したり、運動や水分摂取を促しています。必要に応じ提携医療機関より下剤を処方していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	共同生活として平等に支援が行えるよう、曜日の設定はしていますが、できる限り利用者の希望に添い、健康状態に合わせて入浴していただいています。利用者様にはお好きな入浴剤を選び入浴を楽しんでいただいています。	入浴は基本週2回、午前と午後どちらでも入浴できるようになっているとともに利用者の意向に沿っていつでも入れる。ゆず湯で季節感を出したり、入浴剤を利用して楽しい入浴になるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に基づき、21時の消灯までは自由に過ごしていただいています。気持ちよく眠れるよう、就寝前に室温調整やベットメイキングを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬の勉強会を開き、薬の目的や副作用について把握できるようにしています。薬の変更があるときは必ず申し送りを行い、状態変化を記録し情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様1人ひとりの生活歴、著効品を全職員が理解し、サポートするように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	レクリエーション計画を立て、利用者様の体調に合わせた外出支援を行っています。職員が対応できない場合は、本人の希望をご家族にお伝えしご家族と外出できるよう支援しています。	天気の良い日には事業所周辺を散歩し、近隣住民と挨拶を交わしている。中庭には屋根付きテラスがありテーブルや椅子が設置され、お茶やおしゃべりをして外気浴を楽しんでいる。事業所敷地でバーベキューを行っており、車椅子の利用者も一緒に楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として金銭管理はなしとさせていただいていますが、外出時にはご家族からお金をお預かりし、職員が見守りして支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、職員が電話を取り次いでいます。希望により手紙を書く支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は閉鎖的にならないよう、園庭が見渡せる空間となっています。室内には季節によって壁画を飾り季節感を感じられるよう工夫しています。トイレ、浴室も衛生に気を配り、目印をつけ分かりやすくしています。	食堂兼居間は温度・湿度を管理し全体が清潔に保たれ、カラオケやラジカセ、ソファ、椅子が設置してある。煉瓦で整備された中庭の周辺には植物が植えられ、透明な広い屋根や東屋もあり、椅子とテーブルが配置されていてお茶を楽しみながら外気浴ができる。壁面には利用者の季節を感じさせる折り紙の作品が数点飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	園庭で気の合う利用者様同士でお茶を飲んだり、一人でのんびりと座れるソファを用意したりと工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力していただきながら、使い慣れた家具や、家族の写真を居室に飾るなど、利用者様が居心地の良い環境を作るように心がけています。	居室にはエアコンやベッド、整理筆筒等が備え付けられている。利用者はそれぞれ家族等の写真や使い慣れた家具などを持ち込んでいる。居室の部屋番号のほかに、入り口にひらがなや漢字などの手書きや印刷で各々の入所者が目に入りやすい大きさの表札を掲げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせた家具の配置などを工夫し、できる限り自立した生活ができるような環境整備に努めています。		

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム ありが園

作成日 令和 3年 1月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間想定避難訓練が未実施	年に1度は夜間を想定した避難訓練を実施する	避難訓練の実施日を年間の予定に組み入れ確実に訓練を実施する。	12ヶ月
2	36	個人情報の同意書の中に肖像権が記載されている。	プライバシーを損ねない同意書を作成する	ケアプラン、肖像権の同意書を別にする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。